和泉市水道ビジョン・経営戦略　進捗状況まとめ

資料5

A　現行どおり継続
B　改善し継続
C　縮小
D　休止・廃止

令和７年度評価

基本理念	理想像	基本施策	具体的な取組み		取組評価	令和７年度の主な取組内容	評価の理由	評価指標KPI				
								指標名	基準値(R4)	R7実績	中間目標(R11)	最終目標(R16)
	安全	水質管理体制の強化	1	水質基準の改正に対応した水質検査内容の充実	A	令和6年8月に改訂した「和泉市上下水道部水安全計画」に基づき水源から蛇口までの水質検査を適切に実施した。	水源の水質事故件数が０であったことからAとした。	水源の水質事故件数	0件	0件	0件	0件
			2	安全で安心して飲める水道水の確保	A	「和泉市上下水道事業水質検査計画」に基づき、51項目の水質検査を行い安全な水道水を提供した。	浄水の水質事故件数が０であったことからAとした。	浄水の水質事故件数	0件	0件	0件	0件
			3	小規模貯水槽水道の管理についての啓発	A	「上下すいどうだより」の配布やホームページへの情報掲載等を活用して、周知や啓発を行った。	「上下すいどうだより」やホームページを活用し、周知や啓発を行ったことからAとした。	啓発（広報誌による情報提供）	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年
	強靭	災害に備えて	4	水道施設及び管路の耐震化	A	鶴山台配水場の更新に向け基本設計を完了した。 管路更新工事を進め、耐震化率・耐震適合化率を向上させた。	水道施設及び管路の耐震化に向け順調に進捗している。また、当初予定していた工事については全て発注し、落札差金、補正予算を活用し、追加で工事発注を行うことができたことからAとした。	浄水施設の耐震化率	58.3%	58.3%	58.3%	58.3%
								ポンプ所の耐震化率	94.5%	94.5%	100%	100%
								配水池の耐震化率	84.2%	84.2%	93.8%	99.4%
								管路の耐震管率	24.3%	25.8%	32.1%	39.9%
								管路の耐震適合率	44%	45.3%	50.3%	57.7%
								基幹管路の耐震管率	76.6%	77.8%	82%	82%
								基幹管路の耐震適合率	92.8%	92.8%	97.8%	97.8%
								重要給水施設配水管路の耐震管率	44.9%	45.6%	70.1%	70.1%
								重要給水施設配水管路の耐震適合率	74.9%	76.6%	100%	100%
			5	緊急時用給水栓の設置	A	市内24施設の指定避難所及び指定福祉避難所への設置計画を策定した。 （R8～12年度に掛けて設置予定）	R12年度完了に向け計画を策定したことからAとした。	緊急時用給水栓設置率	0%	0%	80%	100%
			6	応急時の資機材整備	A	老朽化した組立式簡易貯水槽の入替えを実施した。 これまでの資機材配備に加え、新たに非常用携帯トイレを備蓄した。	資材管理と入れ替えを適切に実施している。また、これまでの備蓄品に加え、断水に由来する衛生環境の悪化を防ぐことを目的に、携帯トイレの備蓄を導入したことからAとした。					
			7	相互応援体制の継続・危機管理能力の向上	A	地域防災訓練（北池田中学校区）に参加した。緊急連絡管訓練（泉大津市・高石市）を実施した。耐震性緊急貯水槽訓練（和泉中・信太中）を実施した。大阪府域水道災害対策合同訓練に参加した。応急給水訓練（府中病院・光生病院）を実施した。	例年実施している各種災害対策訓練の実施に加え、本年度は和泉市上下水道耐震化計画に基づく重要施設（災害病院）と連携し、応急給水訓練を新たに実施したことからAとした。	災害対策訓練実施回数	2回/年	5回/年	4回以上/年	4回以上/年
			8	停電対策	A	鶴山台配水場更新に伴う基本設計に自家発電設備の整備を組み込んだ。	鶴山台配水場の更新計画に停電対策を盛り込んだことからAとした。	鶴山台配水場の停電対策	-	-	完了	-
								坪井加圧ポンプ所の停電対策	-	-	完了	-
								小川ポンプ所の停電対策	-	-	完了	-

和泉市水道ビジョン・経営戦略　進捗状況まとめ

資料5

A　現行どおり継続
B　改善し継続
C　縮小
D　休止・廃止

令和７年度評価

基本理念	理想像	基本施策	具体的な取組み		取組評価	令和７年度の主な取組内容	評価の理由	評価指標KPI				
								指標名	基準値(R4)	R7実績	中間目標(R11)	最終目標(R16)
安心・安定な水をみらいにつなぐ	持続	水道施設及び管路の整備	9	老朽化施設の更新	A	鶴山台配水場更新に向け基本設計の策定を行った。 山荘配水場から、はつが野配水場へ配水エリアの切替を行い、山荘配水場の耐震性の無い高架タンクを休止した。	山荘配水場、高架タンクの休止と鶴山台配水場の基本設計を行ったことからAとした。	鶴山台配水場・高架タンクの更新	計画中	-	完了	-
								山荘配水場・高架タンクの廃止	計画中	50%	-	完了
			10	老朽化管路の更新	B	【管路の耐震管率・耐震適合管率】 耐震管率：令和6年度：25.29%⇒令和7年度25.75% 耐震適合管率：令和6年度：44.88%⇒令和7年度45.25% 【基幹管路の耐震管率・耐震適合管】 耐震管率：令和6年度：77.00%⇒令和7年度77.75% 耐震適合管率：令和6年度：92.82%⇒令和7年度92.83% 【重要給水施設配水管路の耐震管率・耐震適合管率】 耐震管率：令和6年度：45.10%⇒令和7年度45.62% 耐震適合管率：令和6年度：76.08%⇒令和7年度76.59% 【更新工事】 基幹管路　L=335.3m 配水支管　L=2,096.2m （うち重要給水施設配水管路L=332.7m） 【管路更新率】 令和6年度：0.42%　令和7年度：0.41%	令和７年度工事において、１件繰越工事となり、前年度を上回ることができなかったことからBとした。	管路の耐震管率(再掲)	24.3%	25.8%	32.1%	39.9%
								管路の耐震適合率(再掲)	44%	45.3%	50.3%	57.7%
								基幹管路の耐震管率(再掲)	76.6%	77.8%	82%	82%
								基幹管路の耐震適合率(再掲)	92.8%	92.8%	97.8%	97.8%
								重要給水施設配水管路の耐震管率(再掲)	44.9%	45.6%	70.1%	70.1%
								重要給水施設配水管路の耐震適合率(再掲)	74.9%	76.6%	100%	100%
								管路更新率	0.45%	0.41%	1.25%	1.25%
		健全経営を保ち続けるために	11	黒字と資金の確保	B	短期有価証券による資金運用を実施した。企業債借入を実施した。	給水収益に対する企業債残高について、指標向上に向けた取り組みを実施し成果指標を達成できている一方で、経常収支比率は100%を上回っているものの悪化しており、料金回収率については水源貯水量減少に起因する受水費の大幅な増加により100%を下回り、改善に向けた取り組みを行う必要があることから、Bとした。	経常収支比率	108.1%	100.5%	100%以上	100%以上
								給水収益に対する企業債残高の割合	65.5%	76.5%	400%以下	600%以下
								料金回収率	101.4%	93.2%	100%以上	100%以上
			12	施設整備事業の見直し	A	「和泉市水道管路更新計画」及び「和泉市鋳鉄管更新計画」を策定した。	AIによる管路劣化予測を活用し和泉市水道管路更新計画を策定した。また、国の通知に基づき和泉市鋳鉄管更新計画を策定した。個別計画についても進捗管理を行い、令和８年度予算に反映することができたことからAとした。	和泉市水道管路更新計画の策定(新規)	-	新規策定	R12に計画見直し	-
								和泉市鋳鉄管更新計画の策定(新規)	-	新規策定	更新工事完了	-
			13	事務業務の見直し	A	申請者の利便性向上並びに市の事務効率化のため、臨時給水予納金前納制度を廃止する条例改正を実施した。量水器取替業務委託において、システムへの記録や水道使用者への案内用紙出力を現地で行えるようハンディ端末を導入した。	費用対効果を重視し、市民の利便性向上も踏まえ、事務業務の効率化や民間委託等の導入、制度廃止を行ったことからAとした。					
			14	公共工事コストの縮減	A	水道工事で使用する水道管をダクタイル鋳鉄管から配水用ポリエチレン管へ変更　（口径φ75mm～Φ150mmが対象）	材料を変更したことにより、工事費の縮減を行うことができたことからAとした。					
			15	技術の継承・人材育成	A	漏水修理訓練等の部内訓練を年14回実施した。 水道関連団体が実施する外部研修会へ、技術職員を中心に述べ25名が参加した。 大学生インターンシップの受け入れを行った。	基準値や中間目標である年間５回を上回り、１４回の職員研修を実施したことからAとした。	研修の実施	5回/年	14回/年	5回/年	5回/年

和泉市水道ビジョン・経営戦略　進捗状況まとめ

資料5

A　現行どおり継続
B　改善し継続
C　縮小
D　休止・廃止

令和７年度評価

基本理念	理想像	基本施策	具体的な取組み		取組評価	令和７年度の主な取組内容	評価の理由	評価指標KPI				
								指標名	基準値(R4)	R7実績	中間目標(R11)	最終目標(R16)
			16	広域化の取組み	A	人工衛星を活用した漏水調査業務を他水道事業体と共同発注した。水質検体搬送業務を他水道事業体と共同発注した。また、水道料金等検針・収納等業務委託（長期継続契約）については平成24年度から継続して他水道事業体と共同発注を行っている。	経営統合ではなく、本市単独による事業経営を進めている中、共同発注などの広域的連携を実施していることからAとした。					
			17	官民連携	A	新たな発注手法の導入を検討（小規模簡易デザインビルド方式）	導入に向けた関係部局との協議及び関係協会からのヒアリングを行い、令和８年度以降の実施に向け取組みを開始したことからAとした。	小規模簡易デザインビルド方式での試行的発注(新規)	-	-	通算10本以上の試行発注	未定
		市民サービスの充実	18	窓口サービスの向上	A	和泉公式LINEアカウントから、水道の使用開始、休止の仮申請受付を電子で実施している。検針の際に漏水疑いのある利用者には通知を行い相談を受けるなど、サービス向上を図った。	電子申請の一部導入や業務委託、利用者への情報配信により、利用者の利便性向上が図られていることからAとした。					
			19	料金収納方法の検討	A	納入通知書により金融機関で支払う方法のほか、口座振替、コンビニ払い、スマホ払い（電子マネー）に対応している。また、ペイジー導入による口座振替手続きの簡素化を図るなど、利便性の向上を図っている。eL-QRの導入に向け検討を開始した。	料金収納方法を複数用意することにより利用者の利便性が図られており、新たな収納方法の検討を開始したことからAとした。					
			20	広報・広聴活動の充実	A	広報紙「和泉市上下すいどうだより」の発行を年２回行い、水運用や業績等の広報活動を実施。ホームページを運営し、水道料金や水質等の市民が知りたい情報を積極的に公開、インターネット上での広報活動を実施。広報・備蓄啓発活動のため上下水道プチフェスタを開催。	広報誌やホームページ、SNSを用いて継続的に広報の充実に努めたことからAとした。					
			21	環境学習、社会学習の場の提供	A	和田浄水場の見学会を実施した（いぶき野小・光明台南小）。出前講座（職業講話）を実施した（石尾中）。	アンケート未実施であるが、出前講座の参加者から後日、感謝の手紙があり好評であったことからAとした。	出前講座・見学会でのアンケート実施（満足度）	-	-	80点以上	90点以上
		環境保全への貢献	22	新エネルギーの活用	A	鶴山台配水場更新に伴う基本設計にて配水池のダウンサイジング（6,000㎥⇒4,300㎥）や新エネルギー活用（小水力発電）に向けて導入検討を実施した。	鶴山台配水場更新の基本設計にて導入検討を行ったことからAとした。	鶴山台配水場で活用を検討	-	-	○	-
			23	有効率、有収率の向上	B	人工衛星を活用した漏水調査を導入することで、多大な時間と費用を要していた漏水調査の効率化を図り、漏水箇所の修理対応の推進に努めた。	有効率、有収率ともに90%を超えているものの、基準値（R4値）を下回ったため、Bとした。	有効率	96.7%	95.2%	97%	97%
								有収率	94.2%	92.8%	94.5%	94.5%
			24	廃棄物の削減・リサイクル	A	公共工事発注の際、資源の有効な利用の促進に関する法律に基づき、再生資源利用計画書及び実施書を作成し、使用する資材については再生資源を利用し、建築副産物については再資源化施設へ搬出した。	令和７年度のすべての工事において、再生資源の利用及び再資源化施設への搬出をすることができたことからAとした。	建設副産物のリサイクル率	100%	100%	100%	100%